

留萌北部 1 の結果概要 天塩 50 林班 れ小班 平成 27 年 8 月 25 日/令和 3 年 8 月 25 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩小尾根	北西	2	2	H23-25 年 8.0	累積 6.2	糞
				2	2	令和元年 3.4	累積 6.1	シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	47 /200 m ²	36.9 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:0 0%			14 /200 m ²	5/43 12%(0%)	
	42 /200 m ²	20.2 m ² /ha	12 /200 m ² 食痕:3(1) 25%(8%)			10 /200 m ²	0/42 0%	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-/- -%		6	85%・122・0%		86%・1.03	
	0 /200 m ²	-/- -%		7	95%・145.6・60%		95%・1.39	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	12	3,709	2	0	0
ダケカンバ	5	1,970	0		0
イタヤカエデ	16	973	8	2	0
トドマツ	1	812	0		0
ハリギリ	2	300	0		0
総計	42	8,092	12	3	0

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m/m)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.387	95.0%	146	12
イワガラミ	3	0.0001	0.1%	9	0
ツタウルシ	1	0.00001	0.0%	15	0
ハイヌツゲ	2	0.00001	0.0%	8	0
クロツリバナ	1	0.00001	0.0%	10	0



天塩町雄信内の天然生林に設定され、基点側は落葉広葉樹林、終点側は針広混交林となっているが、その先(調査区外)は針葉樹の人工林となる。周辺には農地(採草地)が広がり、隣接する採草地に防鹿柵はない。平成 23~25 年の SPUE は 8.0 と高いが、令和 3 年は 3.4 と減少している。現地ではシカ道と糞が認められ、特に人工林内にはおびただしい量の糞が観察されたことから、まとまったエゾシカ個体が越冬地として利用していると思われる。

毎木調査の結果はミズナラが優占し、ダケカンバやイタヤカエデなどが混生した。樹皮はぎは認められなかった。下枝本数は 23 本から 12 本に、小径木は 14 本から 10 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 25% で前回(0%)より増加した。前回と同様に稚樹は見られなかった。

林床はクマイザサが密生し、食痕は高頻度で見られた。それ以外の植物に食痕は見られなかった。

本調査地では、冬季にエゾシカの越冬個体によってササに高い採餌圧がかかっているが、ササの回復力によって植生への影響は顕在化していない。

留萌北部 2 の結果概要 遠別 1167 林班 に小班 平成 27 年 7 月 24 日/2021 年 8 月 24 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹緩斜面	北西	2	2	H23-25 年 4.3	累積 4.9	足跡
				2	2	令和元年 2.7	累積 3.6	シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	41 /200 m ²	56.3 m ² /ha	16 /200 m ² 食痕:2 13%			5 /200 m ²	3/28 11%(0%)	
	35 /200 m ²	29.4 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:0 0%			4 /200 m ²	2/35 6%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	2 /200 m ²	2/2 100%			29	55% ・ 155 ・ 0%	77% ・ 0.99	
	1 /200 m ²	1(0)/1 100%(0%)			17	83% ・ 154.3 ・ 15%	89% ・ 1.30	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ケヤマハンノキ	12	7,691	6	0	2
ダケカンバ	8	1,981	6	0	0
オノエヤナギ	2	1,202	1	0	0
キハダ	6	336	3	0	0
シナノキ	3	320	2	0	0
総計	35	11,776	20	0	2

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
イタヤカエデ	1	1
トドマツ	1	
総計	2	1

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.281	82.7%	154	3
コンソウ	18	0.009	2.6%	32	1
ムカゴイラクサ	10	0.005	1.2%	22	0
オクノカンスゲ	3	0.001	0.6%	18	0
コバナザミ	1	0.001	0.2%	78	0



遠別町(道道 119 号の咲花トンネル付近の旧道沿い)の針広混交林に設定されている。周辺は車道沿いを除いて森林が広がり、一部は人工林となっている。平成 23~25 年の SPUE は 4.3 だったのに対し、令和 3 年は 2.7 と減少している。現地では旧道上などにシカ道や糞が認められた。

二次林のためケヤマハンノキが優占し、ダケカンバやオノエヤナギなどが混生した。樹皮はぎはケヤマハンノキ 2 本に認められた。下枝本数は、16 本から 19 本に増加し、小径木は 5 本から 4 本に減少した。下枝食痕率は 0% で前回(13%)より減少した。広葉樹の稚樹は 1 本のみだった。

林床はクマイザサが密生し、一部に食痕が見られたが、被度は逆に大きく増加した。他の草本類の食痕はわずかだった。

エゾシカは主に旧道沿いを利用しており、林内の採餌圧はそれほど大きくない。

留萌北部 3 の結果概要 東遠別 1115 林班 わ小班 平成 27 年 7 月 23 日/令和 3 年 8 月 24 日調査

林相		地形		方位		毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林		山腹緩斜面		西		2	2	H23-25 年 4.0	累積 3.9	なし	
						2	2	令和元年 3.2	累積 3.6	シカ道	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)				小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	31 /200 m ²	46.0 m ² /ha		20 /200 m ² 食痕:0 0%				8 /200 m ²		2(1)／25 8%(4%)	
	31 /200 m ²	25.3 m ² /ha		16 /200 m ² 食痕:0 0%				8 /200 m ²		2(0)／31 6%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率			総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	4 /200 m ²	0／4 0%				19	65% ・ 151 ・ 0%			71% ・ 1.06	
	1 /200 m ²	0／1 0%				22	84% ・ 155.5 ・ 0%			96% 1.42	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

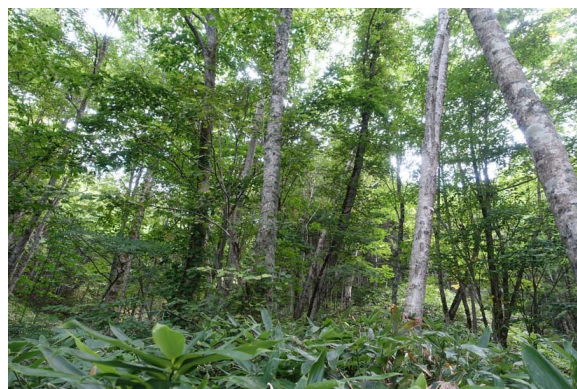
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ウダイカンバ	5	3,833	0		0
シナノキ	8	3,129	5	0	1
ケヤマハンノキ	3	1,909	2	0	0
バッコヤナギ	2	436	2	0	0
キハダ	2	262	0		0
総計	31	10,130	16	0	3

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
オニグルミ	1	
総計	1	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.346	83.5%	156	0
ミズキ	1	0.017	1.0%	170	0
エゾアジサイ	6	0.014	2.2%	56	0
ジュウモンジシダ	5	0.012	2.3%	42	0
イワガラミ	3	0.006	2.4%	19	0



遠別町(道道 688 号の雪見橋付近)の落葉広葉樹林に設定されている。周辺は一部を除いて森林が広がり、天然生林と人工林が混在している。平成 23~25 年の SPUE は 4.0 だったのに対し、令和 3 年は 3.2 とやや減少している。現地ではシカ道が確認された。

ウダイカンバが優占し、シナノキやケヤマハンノキなどが混生した。樹皮はぎはシナノキ、オヒョウなどに認められた。下枝本数は、20 本から 16 本に減少し、小径木は 8 本のままだった。下枝食痕率は前回と同様、0%だった。広葉樹の稚樹は、前回の 4 本からオニグルミ 1 本に減少した。

林床はクマイザサが密生し、食痕は見られなかった。他の草本類にも食痕はみられなかった。

隣接するトドマツ人工林が越冬地に利用されている可能性はあるが、調査地ではエゾシカによる植生への影響はわずかだった。

留萌北部 4 の結果概要 初山別 2240 林班 は小班 平成 27 年 7 月 23 日/令和 3 年 8 月 23 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹斜面	南	2 2	2 2	H23-25 年 6.6 令和元年 5.2	累積 6.7 累積 5.9	目視 1 頭 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	34 /200 m ²	43.3 m ² /ha	17 /200 m ² 食痕:0 0%		4/200 m ²	3(0)/32 9%(0%)		
	29 /200 m ²	24.7 m ² /ha	14 /200 m ² 食痕:2(2) 14%(14%)		1/200 m ²	3(0)/29 10%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	1 /200 m ²	0/1 0%		18	77% ・ 139 ・ 0%		84% ・ 1.12	
	0 /200 m ²	-/- -%		25	74% ・ 132.6 ・ 75%		83% ・ 1.09	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

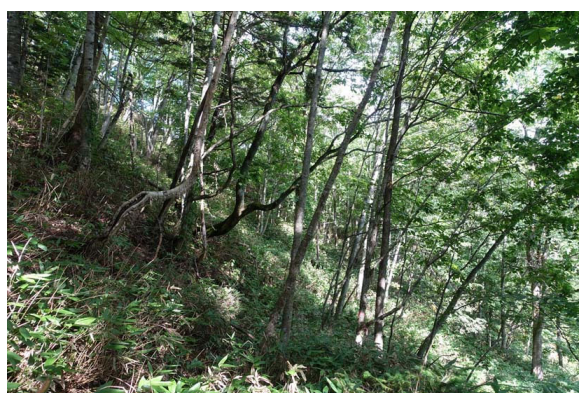
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ケヤマハンノキ	7	3,056	5	0	2
イタヤカエデ	5	2,268	0		0
ハルニレ	3	1,667	2	0	0
ホオノキ	4	1,242	3	0	0
ハウチワカエデ	1	359	0		0
総計	29	9,875	17	2	3

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	13	
総計	13	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.045	74.3%	133	15
ツタウルシ	7	0.018	2.0%	32	0
エゾアジサイ	8	0.011	2.0%	44	0
ヒトリシズカ	14	0.009	3.5%	21	0
ケヤマハンノキ	1	0.004	0.3%	140	1



初山別村(冷水の沢川沿い)の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、一部は人工林となっている。平成 23~25 年の SPUE は 6.6 と高く、令和 3 年は 5.2 とやや減少しているが依然として高水準となっている。現地ではシカ道が確認された。

作業道沿いに調査区が設定されていたためケヤマハンノキが優占し、イタヤカエデやハルニレなどが混生した。樹皮はぎはケヤマハンノキなどに認められた。下枝本数は 17 本から 14 本に、小径木は 4 本から 1 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 14%で前回(0%)から増加した。広葉樹の稚樹は、前回は 1 本あったが、今回は 0 本になった。

林床はクマイザサが密生し、高頻度で食痕が見られた。他の植物の食痕はわずかだった。

隣接するトドマツ人工林が越冬地に利用されている可能性はあり、調査地ではササへの採餌が見られたが、全体としてエゾシカによる植生への影響は小さかった。

留萌北部 5 の結果概要 羽幌 2126 林班 ち小班 平成 27 年 7 月 21 日 / 令和 3 年 8 月 23 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		平坦地		-	2	2	H23-25 年 1.1	累積 2.8	目視 2 頭 シカ道	
					2	2	令和元年 0.9	累積 2.0		
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	25 /200 m ²	14.7 m ² /ha		11 /200 m ² 食痕:0 0%			4 /200 m ²		2(0)／12 17%(0%)	
	24 /200 m ²	10.6 m ² /ha		6 /200 m ² 食痕:0 0%			2 /200 m ²		0／24 0%	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-／- -%				14	79% ・ 177 ・ 0%		82% ・ 1.40	
	0 /200 m ²	-／- -%				12	89% ・ 178.2 ・ 50%		99% ・ 1.67	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

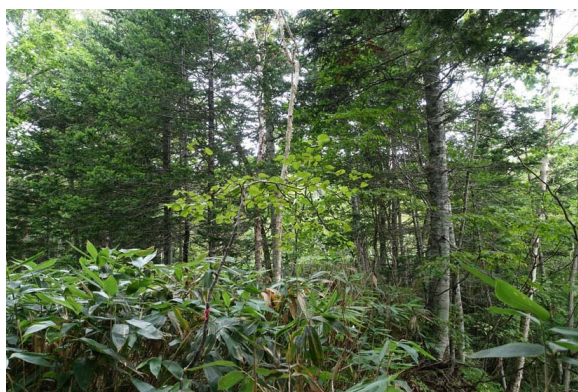
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	5	1,442	3	0	1
シラカバ	3	691	0		0
ミズナラ	4	676	2	0	0
ホオノキ	3	623	1	0	0
ダケカンバ	5	616	0		0
総計	24	4,227	9	0	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	2	
総計	2	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.607	88.0%	178	10
ツタウルシ	12	0.023	7.3%	24	0
チシマザサ	3	0.017	0.9%	183	3
シラカバ	3	0.016	0.8%	200	0
トドマツ	6	0.005	0.5%	41	0



羽幌町 (羽幌川沿い) の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、一部は人工林となっている。また、羽幌川沿いには農地も点在する。平成 23~25 年の SPUE は 1.1、令和 3 年は 0.9 といずれも低い値となっている。現地ではシカ道が確認された。

調査区はトドマツが優占し、シラカバやミズナラなどが混生した。角こすりがトドマツに認められた。下枝本数は 11 本から 6 本に、小径木は 4 本から 2 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は前回と同様 0% だった。広葉樹の稚樹は前回同様、なかった。

林床はクマイザサが密生し、チシマザサが混生する。ササにはやや高い頻度で食痕が見られたが、ササ被度は逆に増加した。他の植物の食痕はわずかだった。

トドマツ優占する部分が越冬地に利用されており、ササへの採餌が見られたが、全体としてエゾシカによる植生への影響は小さかった。

網走西部 1 の結果概要 芭露 79 林班 ち小班 平成 27 年 7 月 6 日 / 令和 3 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹斜面	東	2	2	H23-25 年 1.9	累積 2.2	なし
				2	2	令和元年 2.4	累積 2.3	足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	44 /200 m ²	56.9 m ² /ha	18 /200 m ² 食痕:3 17%			16 /200 m ²	2(0)／34 6%(0%)	
	36 /200 m ²	28.5 m ² /ha	12 /200 m ² 食痕:4(1) 33%(8%)			11 /200 m ²	1(0)／33 3%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	10 /200 m ²	1／10 10%			22	61% ・ 109 ・ 0%	78% ・ 0.71	
	2 /200 m ²	0／2 0%			35	57% ・ 99.9 ・ 0%	74% ・ 0.71	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

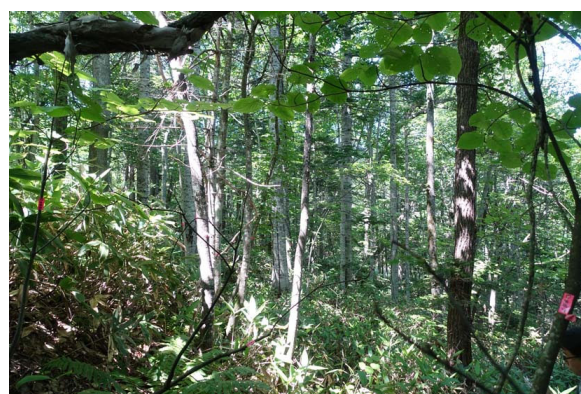
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	8	5,791	0		0
ハリギリ	2	2,248	0		0
カツラ	4	1,946	3	0	0
ホオノキ	4	631	2	1	0
ハウチワカエデ	4	374	4	3	1
総計	36	11,388	16	6	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
オヒョウ	1	
ハウチワカエデ	1	
総計	2	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.635	56.9%	100	0
オオカメノキ	5	0.036	3.3%	74	0
イワガラミ	7	0.014	3.3%	23	0
オシダ	9	0.013	3.8%	28	0
フッキソウ	19	0.008	3.7%	19	0



湧別町(芭露峠の北)の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、一部は人工林となっている。また、調査地の南には大規模な牧場(弥生牧場)がある。平成 23~25 年の SPUE は 1.9、令和 3 年は 2.4 となっている。現地ではエゾシカの足跡が確認された。

調査区はトドマツが優占し、ハリギリやカツラなどが混生した。樹皮はぎはハウチワカエデに認められた。下枝本数は 18 本から 12 本に、小径木は 16 本から 11 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 33%で、前回(17%)より増加した。広葉樹の稚樹は、前回の 10 本から、今回は 2 本に減少した。

林床はクマイザサが優占し、食痕は見られなかった。他の植物の食痕も見られなかった。

全体としてエゾシカによる植生への影響は小さかった。

網走西部 2 の結果概要 上丸瀬布 230 林班 ち小班 平成 27 年 7 月 7 日 / 令和 3 年 7 月 13 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		緩傾斜地	南東	2	2	H23-25 年 4.9	累積 3.7	なし
				2	2	令和元年 2.3	累積 3.5	シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	46 /200 m ²	56.8 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:2 8%			11 /200 m ²	8(0)/49 16%(0%)	
	41 /200 m ²	28.4 m ² /ha	7 /200 m ² 食痕:4(3) 57%(43%)			9 /200 m ²	0/41 0%	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	7 /200 m ²	0/7 0%			3	93% ・ 105 ・ 0%	93% ・ 0.98	
	0 /200 m ²	-/- -%			2	91% ・ 110.6 ・ 15%	91% ・ 1.01	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

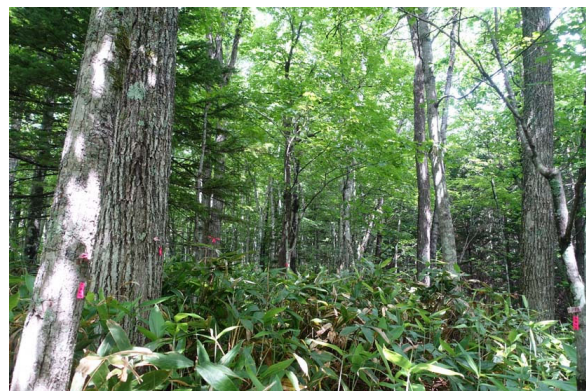
種 名	本数 (本)	総BA_ (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	5	3,974	0		0
イタヤカエデ	17	2,841	3	1	0
ドロノキ	2	2,248	0		0
ハリギリ	2	800	0		0
アカイタヤ	5	481	1	0	0
総計	41	11,367	10	4	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m/m)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.012	91.0%	111	3
ヤチダモ	1	0.000	0.0%	5	0



遠軽町(丸立峠の南、オロピリカ川)の落葉広葉樹林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林と人工林が入り混じっている。平成 23~25 年の SPUE は 4.9 だったのに対し、令和 3 年は 2.3 と減少している。現地ではシカ道・糞が確認された。また、調査区外の斜面下方では、エゾシカによってササが広範囲に採餌され、衰退した様子が観察された。

調査区はミズナラが優占し、イタヤカエデやドロノキなどが混生した。角こすりがトドマツ 1 本に認められた。下枝本数は 24 本から 7 本に、小径木は 11 本から 9 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 57%で、前回(8%)より大きく増加した。広葉樹の稚樹は 0 本で、前回 7 本から減少した。

林床はクマイザサが密生し、食痕は少数見られた。他の植物の食痕も見られなかった。

下枝や稚樹の減少など、エゾシカによる植生への影響が認められた。

網走西部 3 の結果概要 安国 312 林班 ち小班 平成 27 年 7 月 9 日 / 令和 3 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹斜面	北西	2	2	H23-25 年 3.9	累積 3.1	目視オス 1 頭 シカ道・足跡
				2	2	令和元年 3.2	累積 3.1	
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	60 /200 m ²	49.0 m ² /ha	31 /200 m ² 食痕: 1 3%			24 /200 m ²	5(0)／49 10%(0%)	
	54 /200 m ²	24.5 m ² /ha	18 /200 m ² 食痕: 10(6) 56%(33%)			21 /200 m ²	3(0)／50 6%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²
	3 /200 m ²	1／3 33%			13	41% ・ 188 ・ 0%		70% ・ 0.89
	0 /200 m ²	－／－ －%			15	73% ・ 120.2 ・ 0%		75% ・ 0.90

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

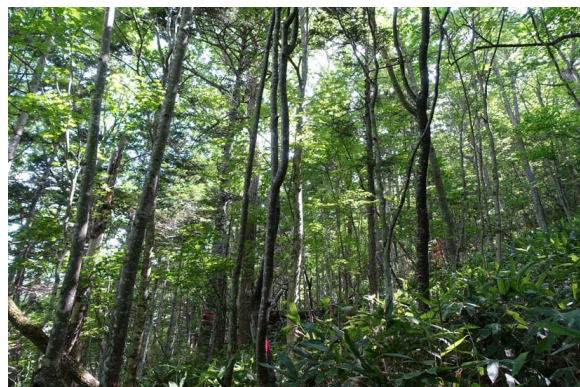
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	13	4,253	1	0	3
ミズナラ	2	3,343	0		0
シナノキ	12	856	5	3	0
エゾマツ	1	468	0		0
ナナカマド	5	328	2	1	1
総計	54	9,806	21	11	6

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	3	
総計	3	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.890	73.3%	120	0
トドマツ	2	0.007	0.7%	97	0
ハウチワカエデ	8	0.003	1.0%	26	4
シナノキ	8	0.001	0.1%	21	2
コウラクツツジ	2	0.001	0.1%	55	1



遠軽町(生田原地区西部)の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林と人工林が入り混じっている。平成 23~25 年の SPUE は 3.9、令和 3 年は 3.2 となっている。現地ではシカ道・足跡が確認された。

調査区はトドマツが優占し、ミズナラやシナノキなどが混生した。樹皮はぎはナナカマドなどに 3 本、角こすりはトドマツに 3 本、それぞれ認められた。下枝本数は 31 本から 18 本に、小径木は 24 本から 21 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 56%で、前回(3%)より大きく増加した。広葉樹の稚樹は 0 本で、前回 3 本から減少した。

林床はクマイザサが優占し、食痕は見られなかった。他の植物では、ハウチワカエデやシナノキなどに食痕が見られた。

下枝や稚樹の減少は見られたが、全体としてエゾシカによる植生への影響は小さかった。

網走西部 4 の結果概要 滝 1127 林班 い小班 平成 27 年 7 月 8 日/令和 3 年 7 月 23 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹斜面	南東	2	2	H23-25 年 4.3	累積 3.6	糞
				2	2	令和元年 5.8	累積 7.2	シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	43 /200 m ²	29.3 m ² /ha	17 /200 m ² 食痕:1 6%			8 /200 m ²	2(0)／27 7%(0%)	
	40 /200 m ²	14.7 m ² /ha	5 /200 m ² 食痕:2(2) 40%(40%)			9 /200 m ²	2(0)／39 5%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	38 /200 m ²	2／38 5%			23	36% ・ 50 ・ 0%	48% ・ 0.20	
	1 /200 m ²	0／1 0%			28	20% ・ 54.7 ・ 100%	25% ・ 0.16	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

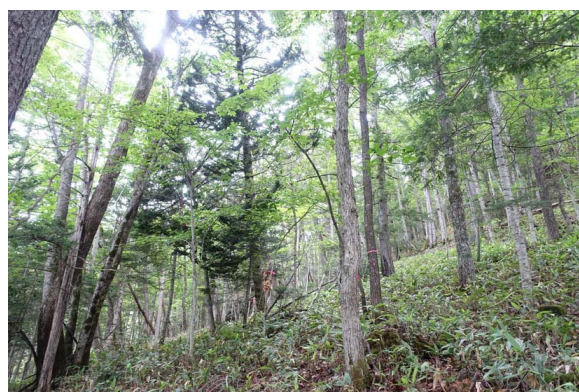
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	15	2,739	2	0	5
ミズナラ	4	1,586	1	1	0
ハリギリ	3	695	0		0
キタコブシ	5	412	1	1	0
イタヤカエデ	6	253	1	0	1
総計	40	5,866	8	2	7

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	14	
ヤマモミジ	1	
総計	15	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	18	0.128	19.7%	55	18
キタコブシ	5	0.024	2.0%	64	0
トドマツ	9	0.006	1.0%	21	0
ツルウメモドキ	14	0.001	0.3%	15	1
ザハリンイトスゲ	3	0.001	0.4%	16	0



遠軽町(丸瀬布地区、武利川支流の六の沢)の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林となっている。平成 23~25 年の SPUE は 4.3 だったのに対し、令和 3 年は 5.8 と増加している。現地ではシカ道・糞が確認された。

調査区はトドマツが優占し、ミズナラやハリギリなどが混生した。樹皮はぎはイタヤカエデなどに 2 本、角こすりはトドマツに 5 本、それぞれ認められた。下枝本数は 17 本から 5 本に減少し、小径木は 8 本から 9 本に増加した。下枝食痕率は 40%で、前回 (6%) より大きく増加した。広葉樹の稚樹は 1 本で、前回 38 本から大きく減少した。

林床はクマイザサが散生し、高頻度で食痕が見られた。ササの被度は 25%で、前回の 48%から半減した。他の植物では食痕はわずかだった。

下枝や稚樹の減少、ササ被度の低下など、エゾシカによる植生への影響が認められた。

網走西部 5 の結果概要 上白滝 2096 林班 い小班 平成 27 年 7 月 7 日/令和 3 年 7 月 12 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾ
針広混交林	平坦	-	2	2	H23-25 年 15.0	累積 5.0	なし
			2	2	令和元年 -	累積 5.0	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	34 /200 m ²	50.3 m ² /ha	20 /200 m ² 食痕:0 0%		7 /200 m ²	10(2)/33 30%(6%)	
	30 /200 m ²	25.1 m ² /ha	11 /200 m ² 食痕:8(5) 73%(45%)		4 /200 m ²	1(0)/30 3%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²
	19 /200 m ²	2/19 11%			17	73% ・ 95 ・ 20%	101% ・ 0.81
	1 /200 m ²	1(0)/1 100%(0%)			26	77% ・ 143.9 ・ 0%	89% ・ 1.24

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ナナカマド	13	4,738	2	2	1
トドマツ	2	3,343	0		0
シナノキ	6	1,680	3	1	0
ハウチワカエデ	6	107	4	3	0
オガラバナ	2	100	2	2	0
総計	30	10,053	11	8	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	3	
オガラバナ	1	1
総計	4	1

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	19	1.177	77.3%	144	0
シラネワザビ	14	0.042	8.8%	45	0
シナノキ	1	0.009	0.5%	170	0
ナナカマド	2	0.002	0.2%	70	1
オクノカンスゲ	6	0.002	0.9%	19	0



遠軽町(北見峠の南東、国道 333 号沿い)の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林となっている。平成 23~25 年の SPUE は 15.0 (誤差の大きい外れ値の可能性)、令和 3 年はデータなしとなっている。現地ではエゾシカの痕跡等は確認されなかった。

調査区はナナカマドが優占し、トドマツやシナノキなどが混生した。樹皮はぎはナナカマド 1 本に認められた。下枝本数は 20 本から 11 本に、小径木は 7 本から 4 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 73%で、前回 (0%) より大きく増加した。広葉樹の稚樹は 1 本で、前回 19 本から減少した。

林床はクマイザサが密生し、食痕は見られなかった。他の植物の食痕もわずかだった。

下枝や稚樹の減少など、エゾシカによる植生への影響が認められた。

西紋別 1 の結果概要 美多良 145 林班 ぬ小班 平成 27 年 7 月 17 日/2020 年 7 月 12 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦	-	2	2	H23-25 年 2.0	累積 4.5	足跡・目視幼獣 1
				2	2	令和元年 -	累積 4.3	足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	46 /200 m ²	44.2 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:0 0%			14 /200 m ²	5(0)/25 20%(0%)	
	47 /200 m ²	21.2 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:7(5) 37%(26%)			17 /200 m ²	1(0)/43 2%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-/- -%			13	41%・188・0%	70%・0.89	
	2 /200 m ²	0/2 0%			19	70%・191.9・0%	102%・1.58	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ダケカンバ	11	3,601	1	0	0
ナナカマド	10	1,962	5	3	1
トドマツ	4	1,673	0		0
エゾマツ	4	1,078	3	0	0
オガラバナ	18	165	16	6	0
総計	47	8,478	25	9	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
エゾマツ	2	
オガラバナ	2	
トドマツ	1	
総計	5	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	1.346	69.5%	192	0
シラネウラボ	16	0.118	17.7%	48	0
オガラバナ	12	0.094	7.4%	87	1
トドマツ	1	0.008	1.0%	78	0
オクノカンスゲ	2	0.003	1.3%	24	0



滝上町（浮島トンネルの北東、旧道沿い）の針広混交林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林となっている。平成 23～25 年の SPUE は 2.0、令和 3 年はデータなしとなっている。現地ではエゾシカの足跡が確認された。

調査区はダケカンバが優占し、ナナカマドやトドマツなどが混生した。樹皮はぎはナナカマド 1 本に認められた。下枝本数は前回同様 19 本のままで、小径木は 14 本から 17 本に増加した。下枝食痕率は 37%で、前回（0%）より大きく増加した。広葉樹の稚樹は 2 本で、前回 0 本から増加した。

林床はチシマザサが密生し、食痕は見られなかった。ササの平均被度は 70%と、前回 41%から大きく増加した。他の植物の食痕もわずかだった。

全体としてエゾシカによる植生への影響は小さかった。

西紋別 2 の結果概要 北雄 203 林班 ヘ小班 平成 27 年 7 月 16 日 / 令和 3 年 7 月 15 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		山腹斜面	西	2	2	H23-25 年 4.9	累積 5.1	糞
				2	2	令和元年 5.7	累積 6.7	足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	66 /200 m ²	41.9 m ² /ha	36 /200 m ² 食痕:2 6%		31 /200 m ²	10(0)/69 14%(0%)		
	58 /200 m ²	20.9 m ² /ha	22 /200 m ² 食痕:7(1) 32%(5%)		22 /200 m ²	8(0)/47 17%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	20 /200 m ²	3/36 15%		33	38% ・ 163 ・ 0%	63% ・ 0.71		
	8 /200 m ²	2(0)/8 25%(0%)		38	58% ・ 157.2 ・ 10%	71% ・ 1.00		

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
オオバボダイジュ	10	2,960	4	3	2
バッコヤナギ	4	1,851	1	0	0
オヒョウ	1	1,184	0		1
イタヤカエデ	28	705	20	5	1
シウリザクラ	3	445	1	1	1
総計	58	8,375	32	11	8

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	4	1
イタヤカエデ	3	1
オニグルミ	1	
トドマツ	1	
総計	9	2

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	0.933	58.3%	157	2
イタヤカエデ	7	0.016	1.0%	73	0
ジュウモンジシダ	6	0.008	2.0%	37	0
ヤマグワ	4	0.007	0.8%	58	0
オシダ	5	0.006	1.6%	31	0



滝上町（滝上霊園の上）の落葉広葉樹林に設定されている。周辺は森林が広がり、一部に人工林が混じっている。平成 23～25 年の SPUE は 4.9、令和 3 年は 5.7 となっている。現地ではエゾシカの足跡が確認された。

調査区はオオバボダイジュが優占し、バッコヤナギやオヒョウなどが混生した。樹皮はぎは計 8 本に認められた。下枝本数は 36 本から 22 本に、小径木は 31 本から 22 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 32% で、前回（6%）より増加した。広葉樹の稚樹は 8 本で、前回 20 本から減少した。

林床はチシマザサが優占し、一部に食痕が見られたが、ササの平均被度は 58% と、前回 38% から増加した。他の植物では食痕は確認されなかった。

さまざまな指標により、エゾシカによる植生への影響が認められた。

西紋別 3 の結果概要 立牛 1029 林班 い小班 平成 27 年 7 月 15 日 / 令和 3 年 7 月 15 日調査

林相			地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林			山腹斜面		北	2	2	H23-25 年 4.5	累積 5.4	なし	
						2	2	令和元年 3.2	累積 4.2	シカ道・糞・骨	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)				小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	54 /200 m ²	38.5 m ² /ha		31 /200 m ² 食痕:0 0%				24 /200 m ²	2／53 4%(0%)		
	53 /200 m ²	19.2 m ² /ha		15 /200 m ² 食痕:2(0) 13%(0%)				20 /200 m ²	0／48 0%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)				林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	8 /200 m ²	0／8 0%					26	48% ・ 102 ・ 0%		75% ・ 0.63	
	12 /200 m ²	9(2)／12 75%(17%)					46	31% ・ 92.3 ・ 0%		78% ・ 0.57	

※ 数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

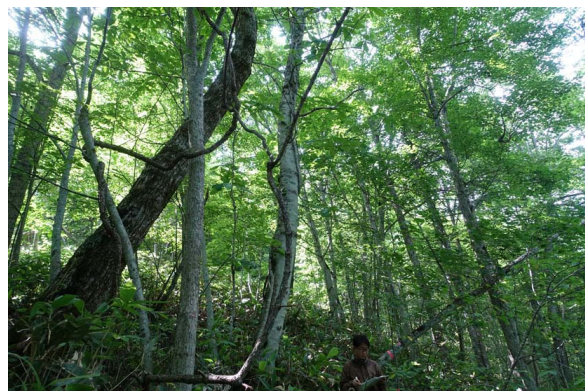
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
シウリザクラ	15	2,044	8	3	0
シナノキ	9	1,375	2	0	0
オヒョウ	3	1,058	1	0	0
イタヤカエデ	7	1,009	0		0
ヤチダモ	1	913	0		0
総計	53	7,691	20	5	0

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	11	8
トドマツ	3	
オヒョウ	1	1
総計	15	9

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.319	31.0%	92	0
オシダ	12	0.075	11.7%	50	0
ノリウツギ	4	0.062	6.0%	98	1
ジューモンジシダ	16	0.035	9.1%	33	0
トドマツ	1	0.013	1.5%	88	0



紋別市（上渚滑地区の立牛三十六線川）の落葉広葉樹林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林となっている。平成 23～25 年の SPUE は 4.5、令和 3 年は 3.2 となっている。現地ではシカ道、糞、骨が確認された。

調査区はシウリザクラが優占し、シナノキやオヒョウなどが混生した。樹皮はぎ確認されなかった。下枝本数は 31 本から 15 本に、小径木は 24 本から 20 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 13% で、前回 (0%) より増加した。広葉樹の稚樹は 12 本で、前回 8 本から増加した。

林床はクマイザサが優占するがまばらで、食痕は確認されなかったが、ササの平均被度は 31% と、前回 48% から減少した。他の植物ではノリウツギに食痕が確認された。

全体としてエゾシカによる植生への影響は小さかった。

西紋別 4 の結果概要 紋別 1231 林班 る小班 平成 27 年 7 月 14 日 / 令和 3 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		山腹斜面	東	2	2	H23-25 年 6.7	累積 3.2	なし
				2	2	令和元年 1.6	累積 2.9	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	81 /200 m ²	53.0 m ² /ha	38 /200 m ² 食痕:1 3%			32 /200 m ²	0/73 0%	
	75 /200 m ²	26.5 m ² /ha	29 /200 m ² 食痕:0 0%			29 /200 m ²	0/67 0%	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²
	1 /200 m ²	0/1 0%			1	52% ・ 112 ・ 0%		52% ・ 0.58
	0 /200 m ²	-/- -%			9	64% ・ 126.5 ・ 0%		65% ・ 0.83

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

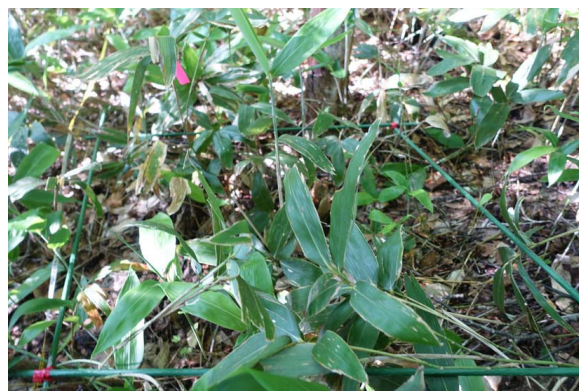
種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	5	2,752	1	0	0
ウダイカンバ	3	2,291	0		0
ハウチワカエデ	37	1,599	19	0	0
シナノキ	17	1,412	15	1	0
ダケカンバ	1	1,025	0		0
総計	75	10,597	40	1	0

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.822	64.0%	127	0
トマト	1	0.007	0.5%	134	0
ハウチワカエデ	7	0.000	0.1%	12	0
イタヤカエデ	3	0.000	0.1%	15	0
エゾスズラン	2	0.000	0.01%	16	0



紋別市(上藻別地区)の落葉広葉樹林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林と人工林が入り混じっている。平成 23~25 年の SPUE は 6.7 と高かったが、令和 3 年は 1.6 に低下している。現地ではエゾシカの痕跡は確認されなかった。

調査区はミズナラが優占し、ウダイカンバやハウチワカエデなどが混生した。樹皮はぎ確認されなかった。下枝本数は 38 本から 29 本に、小径木は 32 本から 29 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 0% で、前回 (3%) より減少した。広葉樹の稚樹は 0 本で、前回 1 本から減少した。

林床はクマイザサが優占し、食痕は確認されなかった。他の植物にも食痕は確認されなかった。

全体としてエゾシカの資源量は少なくない環境ながら、植生への影響はほとんど見られなかった。

西紋別 5 の結果概要 滝西 281 林班 は小班 平成 27 年 7 月 16 日 / 令和 3 年 7 月 16 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		山腹斜面		北西	2	2	20011-13 年 4.6	累積 4.0	なし	
					2	2	令和元年 2.2	累積 3.7	足跡	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	36 /200 m ²	63.8 m ² /ha		21 /200 m ² 食痕:0 0%			8 /200 m ²	4(0)／36 11%(0%)		
	35 /200 m ²	31.9 m ² /ha		12 /200 m ² 食痕:2(0) 17%(0%)			13 /200 m ²	1(0)／29 3%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	56 /200 m ²	8／56 14%				13	36% ・ 108 ・ 0%		45% ・ 0.44	
	25 /200 m ²	13(2)／25 52%(8%)				18	72% ・ 121.0 ・ 0%		79% ・ 0.94	

※数値の上段は平成 27 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
カツラ	5	7,738	2	0	0
オオバボダイジュ	1	1,620	0		0
イタヤカエデ	7	1,420	4	0	0
シウリザクラ	4	850	3	1	0
ヤチタモ	1	396	0		0
総計	35	12,761	18	2	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	21	12
イタヤカエデ	1	
オオバボダイジュ	1	
ミズキ	1	
ヤチタモ	1	1
総計	25	13

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.885	71.5%	121	0
シウリザクラ	9	0.040	3.4%	93	2
コンロンソウ	13	0.013	2.8%	29	0
ジュウモンジシダ	2	0.001	0.3%	30	0
サラシナショウマ	2	0.000	0.2%	23	0



滝上町(上藻別地区)の落葉広葉樹林に設定されている。周辺は森林が広がり、天然生林と人工林が入り混じっている。平成 23~25 年の SPUE は 6.7 と高かったが、令和 3 年は 1.6 に低下している。現地ではエゾシカの痕跡は確認されなかった。

調査区はミズナラが優占し、ウダイカンバやハウチワカエデなどが混生した。樹皮はぎ確認されなかった。下枝本数は 38 本から 29 本に、小径木は 32 本から 29 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 0% で、前回 (3%) より減少した。広葉樹の稚樹は 0 本で、前回 1 本から減少した。

林床はクマイザサが優占し、食痕は確認されなかった。他の植物にも食痕は確認されなかった。

全体としてエゾシカの資源量は少なくない環境ながら、植生への影響はほとんど見られなかった。

石狩当別 1 の結果概要 当別 102 林班 い 2 小班 令和 3 年 7 月 21 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹斜面	南	2	2	令和元年 0.8	累積 1.5	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	42 /200 m ²	38.0 m ² /ha	21 /200 m ² 食痕:0 0%		7 /200 m ²	1(0)/42 2%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	1 /200 m ²	0/1 0%		31	50% ・ 122.4 ・ 0%	65% ・ 0.70		

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

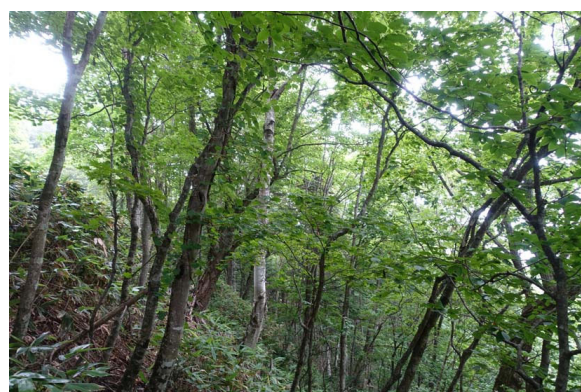
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
シナノキ	11	5,627	3	0	0
トドマツ	4	3,327	2	0	0
ホオノキ	8	2,651	3	0	0
ウダイカンバ	2	2,125	0		0
イタヤカエデ	2	637	1	0	0
総計	42	15,191	23	0	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
サワシバ	1	
トドマツ	1	
総計	2	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.626	50.3%	122	0
トドマツ	1	0.024	1.8%	138	0
ハイヌガヤ	11	0.022	3.0%	50	0
ツタウルシ	12	0.012	4.0%	25	0
ツルシキミ	4	0.004	1.2%	29	0



当別町の当別ふくろう湖の西側にある針広混交林に設定されている。調査区は沢沿いに位置し、周辺は人工林が多い。令和 3 年の SPUE は 0.8 と低い。調査区周辺ではエゾシカの痕跡は確認されなかった。

シナノキ、トドマツ、ホオノキ、ウダイカンバが優占する林分で、樹皮はぎは 2% で新規のものはなかった。下枝本数は 21 本、小径木は 7 本と少なかった。下枝食痕率は 0% だった。広葉樹の稚樹はサワシバの 1 本のみだった。

林床はクマイザサが密生し、他にはトドマツ、ハイヌガヤ、ツタウルシなどがわずかに見られた。林床で食痕が見られた植物はなかった。

天然林内では、エゾシカの利用は少ない。周辺の人工林では痕跡も見られ、設置した自動カメラには低頻度であるもののエゾシカの生息が確認されている。

石狩厚田 1 の結果概要 厚田 1300 林班 わ小班 令和 3 年 7 月 21 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山腹斜面	東	2	2	令和元年 2.4	累積 5.5	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	40 /200 m ²	12.9 m ² /ha	27 /200 m ² 食痕:5(4) 19%(15%)			23 /200 m ²	4(2)/40 10%(5%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	10 /200 m ²	1(1)/10 10%(10%)		35	37% ・ 124.3 ・ 0%		84% ・ 0.83	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

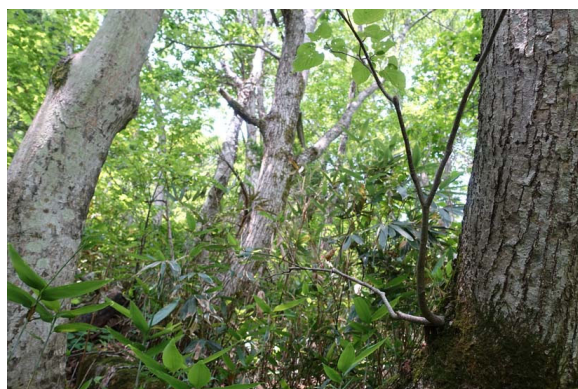
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	2	1,642	0		0
シナノキ	3	1,229	3	1	0
サワシバ	6	897	5	1	0
アカイヤタ	7	695	3	0	0
バッコヤナギ	1	426	1	1	0
総計	40	5,142	31	5	4

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
ハウチワカエデ	3	
アズキナシ	2	
サワシバ	2	
トドマツ	2	
ホオノキ	2	1
総計	12	1

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.491	37.1%	124	0
ハイイヌガヤ	8	0.083	7.7%	86	0
オシダ	7	0.045	6.6%	60	0
ノリウツギ	5	0.041	5.2%	52	1
アズキナシ	4	0.031	1.8%	165	0



石狩市厚田の厚田川支流の中湯の沢川の左岸側の針広混交林に設定されている。調査区は尾根沿いに位置し、周辺は人工林が多い。令和 3 年の SPUE は 2.4 と低い、累積値は 5.5 とやや高めである。調査区周辺ではエゾシカの痕跡は確認されなかった。

ミズナラ、シナノキが優占する林分で、下層にはサワシバ、アカイヤタ、ハウチワカエデが多い。樹皮はぎ率は新規で 5% でオヒョウが多かった。下枝本数は 27 本、小径木は 23 本で、下枝食痕率は 19% で、夏季食痕率は 15% だった。広葉樹の稚樹はハウチワカエデやアズキナシなど 10 本で、稚樹食痕率は 10% だった。

林床はクマイザサが 37.1% と優占し、他にはハイイヌガヤ、オシダ、ノリウツギなどが見られた。林床で食痕がノリウツギやツリバナなどの木本類でわずかに見られた。

現在のところエゾシカの利用は少なく、天然林への影響も小さい。

石狩厚田 2 の結果概要 厚田 2780 林班 い小班 令和 3 年 7 月 21 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	北	2	2	令和元年 2.7	累積 3	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	81 /200 m ²	56.2 m ² /ha	63 /200 m ² 食痕: 14(0) 22%(0%)			46 /200 m ²	0/81 0%	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	30 /200 m ²	3(3)/30 10%(10%)		31	33% ・ 103.7 ・ 0%		76% ・ 0.71	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

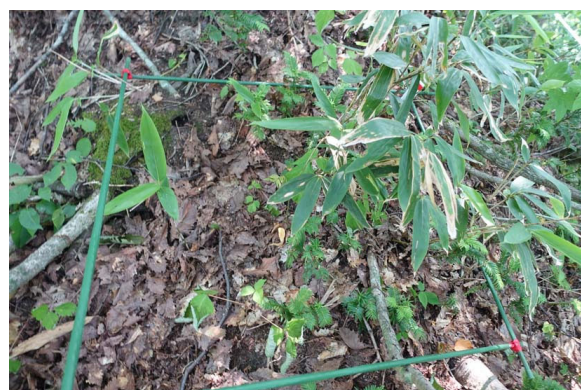
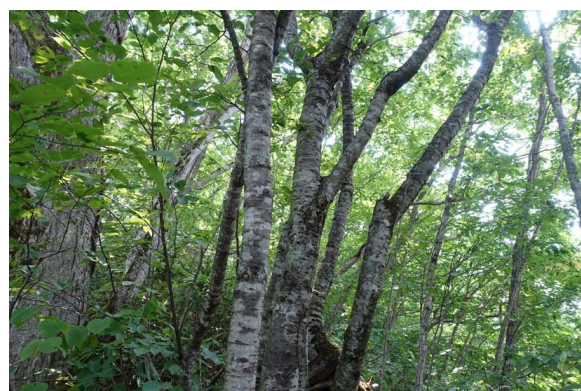
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	10	17,701	3	0	0
ダケカンバ	2	1,060	0		0
アカイタヤ	5	796	3	0	0
ハリギリ	2	650	1	0	0
エゾヤマザクラ	9	547	7	0	0
総計	81	22,471	63	14	0

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
アカイタヤ	9	1
サワシバ	8	1
ハウチワカエデ	5	
シナノキ	3	
アズキナシ	2	1
総計	30	3

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	0.408	33.3%	104	0
オオカメノキ	8	0.075	6.8%	84	0
ハイイヌガヤ	17	0.062	10.7%	45	0
サワシバ	4	0.044	2.9%	121	0
アクシバ	9	0.038	5.6%	54	2



石狩市厚田の厚田川上流の右岸側の広葉樹林に設定されている。調査区は尾根沿いに位置し、周辺は人工林が散在する。令和 3 年の SPUE は 2.7 と低い。調査区周辺ではエゾシカの痕跡は確認されなかった。

ミズナラが優占する林分で、その他、ダケカンバ、アカイタヤ、ハリギリ、エゾヤマザクラなどが混在する。樹皮はぎは見られなかった。下枝本数は 63 本と高密度で小径木も 46 本と高く、下枝食痕率は 22% だった。広葉樹の稚樹はアカイタヤやサワシバなど 30 本で、稚樹食痕率は 10% だった。

林床はクマイザサが 33.3% と優占し、他にはハイイヌガヤ、オオカメノキ、アクシバなど低木類が多く見られた。林床植生の食痕は、アクシバ、アカイタヤ、コマユミなどの木本類に多く見られた。

現在のところエゾシカの利用は少なく、天然林への影響も小さい。

石狩浜益 1 の結果概要 浜益 5790 林班 る小班 令和 3 年 7 月 21 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦地	-	2	2	令和元年 1.6	累積 2.3	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200 m ²	22.8 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕:4(2) 13%(6%)			26 /200 m ²	1(0)/54 2%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-/- -%		49	79% ・ 139.5 ・ 0%		85% ・ 1.25	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

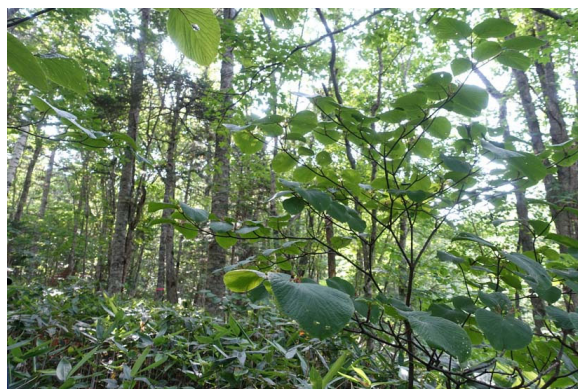
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	7	4,875	3	0	0
トドマツ	9	1,681	3	0	0
ハウチワカエデ	13	1,232	13	1	0
アカイタヤ	19	612	11	1	0
アズキナシ	2	460	1	0	0
総計	54	9,129	35	4	1

稚樹調査結果

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	4	
総計	4	

林床植生調査結果

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.145	79.0%	140	0
オオカメノキ	4	0.098	5.1%	152	4
トドマツ	5	0.005	0.3%	70	0
ハウチワカエデ	3	0.003	0.2%	68	1
アカイタヤ	5	0.000	0.1%	17	0



石狩市浜益の浜益川支流の盤の沢川左岸側の針広混交林に設定されている。調査区は河岸段丘の平坦地に位置する。令和 3 年の SPUE は 1.6 とかなり低い、調査区周辺ではシカ道と足跡は確認された。

ミズナラ、トドマツがが優占する林分で、下層には、ハウチワカエデが多い。樹皮はぎは 2% と低き、新規は見られなかった。下枝本数は 32 本、小径木は 26 本で、下枝食痕率は 13% で、夏季食痕率は 6% だった。広葉樹の稚樹は見られなかった。

林床はクマイザサが密生し、他にはオオカメノキなどの木本類がわずかに見られた。林床植生の食痕は、オオカメノキやハウチワカエデなどの高木類で見られた。

現在のところエゾシカの利用は少なく、天然林への影響も小さい。